

# 協働のまちづくり語る

## 守屋さん講演とトークショー



テレビやラジオの取材を通じて感じた、地域づくりの特長を話す守屋さん



トークショーでまちづくりへの思いを語る(右から)熊谷由紀さん(NPO法人さくらんぼくらぶ代表)、及川豊二さん(浅水ふれあいセンターセンター長)、高橋幸子さん、布施孝尚市長、守屋さん

市民と市による協働のまちづくりの取り組みを共有しようとして、市では「協働のまちづくりトークショー」を3月16日に開催しました。平成24年度の地域協働まちづくり事業と協働のまちづくり地域交付金制度の報告会を兼ねて行ったもの。会場の中田農村環境改善センターには市内で地域づ

くり事業に取り組む方など約180人が参加しました。はじめに、市内豊里町出身で東北放送アナウンサーの守屋周さんが「私が思うまちづくりはアウンサーの視点から」と題して講演。その後のトークショーでは心友会代表の高橋幸子さん(石越町)ら3人が事例発表しました。

# 明るく楽しく「心で走る」

## マラソン・瀬古さん招き講演会



「いっぱい苦労したけど、人間、明るくいかないとね」。自身の体験談や一流選手の裏話をユーモアたっぷりに話す瀬古さん

市と市教育委員会、市体育協会では、3月15日に市スポーツ講演会を開催しました。今年の講師は、マラソン



瀬古さんの軽妙なトークで、会場は笑ったり感心したりの90分間でした

のオリンピック元日本代表で、エスビー食品(株)スポーツ推進局長を務める瀬古利彦さん。会場の中田農村環境改善センターには、市民約200人が参加しました。「心で走ろう」と題して講演した瀬古さんは、現役時代の体験や苦労話、マラソンの高橋尚子さんや柔道の山下泰裕さんなど一流選手の練習法や裏話をユーモアたっぷりに紹介。「同じ練習でも、いかに自分で気持ちを入れて工夫などと話しました。



在校生や先生、保護者などに見守られ卒業した森小学校6人の6年生

# 森小学校で最後の卒業式 学びやとの別れ、一際

卒業シーズンの3月、市内の小中学校でそれぞれ卒業式が行われました。今年4月に佐沼小学校と統合する森小学校では3月15日に最後の卒業式を開催。式典では高橋弘一校長が6人の卒業生一人一人に卒業証書を授与すると、卒業生は壇上から保護者らに向かって将来の夢を力強く述べました。最後は、早坂雪男教頭が「以上をもって、平成24年度森小学校の、そして最後の卒業式を終わります」と思いを込めた閉式の言葉で締めくくりました。

今年市内の小中学校を卒業したのは、小学校23校で786人、中学校10校で771人となります。

卒業生を送った下級生たちにとっても、森小学校での最後の卒業式になります



卒業生を送った下級生たちにとっても、森小学校での最後の卒業式になります



2月24日の供用開始日には、地元の泥内行政区主催で完成記念式典が開催。関係者によるテープカットが行われました

# 協定から11年かけ完了

## 迫町・新「駒見橋」完成で式典

平成14年度に県と旧迫町が協定を締結し事業を進めてきた、荒川に架かる市道泥内線の駒見橋の架け換え工事が完了し、2月24日に供用が開始されました。

24日の供用開始日には、地元の泥内行政区の主催で完成記念式典と渡り初めが行われ、テープカットや佐沼鹿踊りな

どが披露、市民や工事関係者らで完成を祝いました。新「駒見橋」は全長57メートルで、総事業費は約5億8200万円。県(河川改修)と市(橋梁改修)の共同事業として進めてきました。工事の完成で、流域の治水安全度が向上するとともに、車両や歩行者の安全な通行空間が確保されます。

# 災害時に市の施設使用

## 市と佐沼・登米警察署が協定

市と佐沼・登米両警察署は、大規模災害で警察庁舎が被災した場合、市の施設を代替施設として使用する協定書を締結しました。これにより、大地震や水害などで警察署が被災し災害警備本部の設置が困難となったときには、佐沼警察署は市役所や市消防防災センターなど市の5施設を、登

米警察署は東和、登米の2総合支所を一定期間使用します。2月27日に佐沼警察署で行われた協定式には、布施孝尚市長や佐沼警察署の内海裕之署長、登米警察署の齊藤久徳署長など関係者が出席。布施市長は「いざという時、志を一つに行動できる環境づくりができた」と述べました。



協定を結び固い握手を交わす(左から)内海署長、布施市長、齊藤署長